

ふるさと奥尻通信

令和3年12月24日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

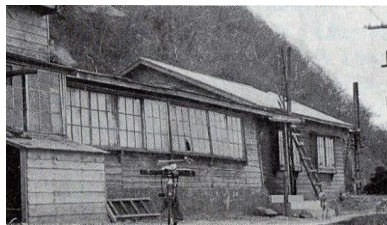
地域を深掘りしてみると、その場所その場所に謂われがある。そこには様々な人々が関わり、物語がある。過ぎ去った時代を顧みることによって現代を見直す切っ掛けとなる。

特集 奥尻本陣と跡地の建物変遷

奥尻港を望む海岸道路沿い、観音山の裾野に一本の大きな杉の木が立っています。「庚申の杉」と名付けられた杉の木は、樹齢250年ほどで、「北海道の名木100選」にも選定されています。この周辺は、かつて奥尻島統治の中心地のような場所だったのです。

江戸時代の頃、奥尻島を支配していた松前藩(幕府直轄時代を除く)が家臣に島を知行地として与え、現地での交易を許可することで家禄の代わりとしていました。これは、蝦夷が島(北海道)が稲作に適さず、藩民から年貢を取ることができないことの代替えでした。その後、直接の交易を商人に任せ、その利潤を運上金として上納させる方式になります。商人(場所請負人)は利益を求め余りに、対等関係であったアイヌが使役される立場になるといふ弊害が起きました。

庚申の杉の周辺に、場所請負人荒谷新左衛門が取り仕切る運上屋が置かれ、維新後、明治2年からは福岡藩が奥尻島含む檜山地方の統治を任されたことから、そのまま建物を引き継いで「奥尻本陣」として使用したようです。



本陣のあったとされる場所 解体後 道立診療所の頃 昭和40年頃

福岡藩が去った後の明治5年からは開拓使奥尻出張所となり、明治19年には北海道庁が成立します。その後、この建物がいつまで行政機関として使用されたかは定かではありませんが、若松家(父:甚太郎の代で来島。農業、漁業、納税委員など。息子:栄作は奥尻鉱山林業部にも勤務)に引き継がれ、大正初期頃からは若松旅館という宿が経営されていました(昭和10年頃に綴り方教育をした阿部秀一教諭の下宿。月に18円)。旅館は栄作と妻スイ(スエ)の経営で、昭和23年頃まで続いたようです。その後間もなく、建物は「道立奥尻診療所」(加藤病院)となって加藤雄一郎医師が着任します。雄一郎は慶応大医学部の卒業で千島や樺太などでも勤務した経験がありました。父の豊三郎は陸士4期、陸大15期卒業の軍人で、大正6年(1917)に歩兵第17旅団長となって、翌年少将で予備役となっています。

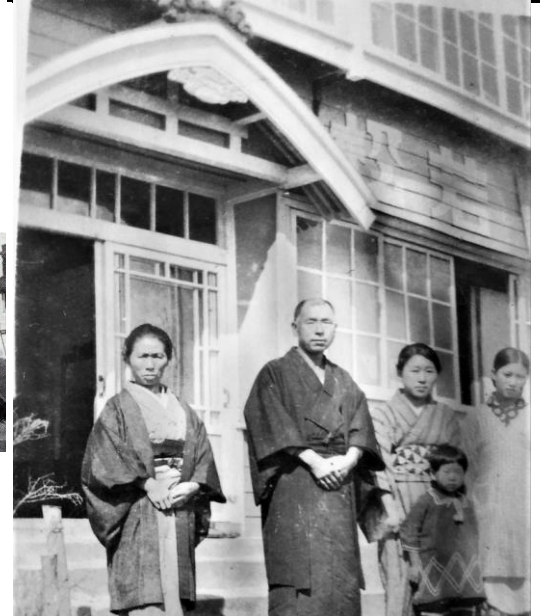
加藤医師の病院の他に、稲穂や青苗にも診療所がありました。昭和35年(1960)に開業医の施設を借り上げることで村営の診療所が出来、同37年に10床の内外科医院が新築されました。ここは同39年に20床増床し、「奥尻村国民健康保険病院」と改称、同50年に現在の病院建物を新築されています。

加藤医師の病院は昭和40年頃まで継続しました。その後、病院の跡地には、昭和52年(1977)に民間経営の独身者向けアパートが建てられ、しばらく経営されていましたが、今年(令和3年:2021)解体されて更地になっています。

このように時代によって様々な変遷を見守ってきた大きな杉の木は、これからも奥尻の街の盛衰を静かに眺めていくことでしょう。

建物変遷の経過

1800年代	江戸末期	運上所屋舎
1869	明治2年	福岡藩本陣
1872	明治5年	開拓使奥尻出張所
1886	明治19年	道庁出張所
1900年代	明治期か	若松家
1920年代	大正初期	若松旅館
1948頃	昭和23年頃	道立奥尻診療所
1977	昭和52年	竹中アパート
2021	令和3年	アパート解体し更地



若松旅館と栄作夫妻 昭和初期か

奥尻島人足寄場の話

江戸時代末期の文久元年(1861)、奥尻島に「臼尻人足寄場」の出張所が設けられ、翌年に18人の流人が収容されました。ここは、罪を犯した人々を送り込んで、漁業に従事させて教育、矯正させる施設で、江戸から遠島刑に処せられた罪人が流されてきたのです。もっぱら漁業に従事するといった比較的明るい作業内容から、平穏な雰囲気教育が行われたようです。施設として、当時の釣懸(現奥尻地区)に出張所、牢屋、板蔵、雪隠などが長坂庄兵衛の手により建設され、慶応元年には臼尻から人足が全員奥尻へ移されました。しかし、間もなく江戸幕府が崩壊し、福岡藩の統治にならずに流人らは釈放され、明治3年(1870)に廃止されました。

福岡藩が本陣を置いた建物が、元の寄場出張所の建物であったのかどうかは定かではありませんが、当時余っていた堅牢な建物を再利用したと考えるが自然ではないでしょうか。現地を案内された中河原はそう推測しています。参考文献:中河原喬1988『近世北海道行刑史』同成社。



結成式に参加した面々です。津山元村長、上埜町長、越森次期町長、町議会議員、商工、土木・建築関係の経営者ら、当時の島の名士たちとも言える人々です。年代は昭和40年代前半頃です。祝宴にはサッポロビールと日本酒澤之鶴、ココロラといった北海道ではお馴染みの飲料と海苔巻き程度の簡単なつまみが出されていたようです。昼間の開催だったからでしょうか。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

北海道大学もうひとつのキャンパスマップ
北大ACMプロジェクト編

一般にはポプラやイチヨウ並木、かつてはジンギスカンで有名だった北大キャンパス内。数多くの遺跡や自然環境などもかつての札幌の様子を伝えてくれる。そんな場所を深掘りして別な視点で見ると、民族、人権、研究倫理、大学自治、学問と軍事研究など問題となった出来事が見えてくる。クラーク博士もびっくりすることでしょう。

奥尻のつり 夏・秋号

今年はとても暑い夏でした。おかげで海水浴は進んだものの、夏枯れは例年以上だったかもしれません。エサ釣りの連中は3ヶ月ほどの長い夏休みに入りまして、それもようやく明けてきたところです。その間、9月には神威脇漁港、宮津漁港などで、アジ、サバの回遊があり、大きなものだと30センチ近いものも出たとか。6月解禁後もマイカは少なく、10月中旬になってようやく浜が忙しくなってきました。年末まで続いてほしいものですね。少しずつ増えてきていたアオリイカは、今年はとても少なく1キロに達するような大型はいないとのこと。赤石漁港にサケが帰ってこなくなると数年、カムバックサーモン運動でもしましょうかね？11月、12月は時化が多く、磯に出にくい日々でした。さてさて正月用の魚は釣れたのかな？

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第1回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号

だて私らぎ入は見やれてぞ人乍と碗もにし
 っ、が、滑っ、るって、一達らでは寝、て冬
 た縁昨洗りても。ばし茶とは、あ洗坊茶何に
 。を日っにい側りま碗そいへるえを碗何に
 ち茶て行な茶に手っをれ、ス。なす洗時
 よ碗いくか碗あだて洗ばな、キ晝かるいも、
 っとなにっがっけいっか、一食っのをの私
 と茶がいた、たはたてり私滑後たです仕の
 か碗、なで一荒動。いにもり。の、る事日
 ついたぶのとへ、つ桶いそる気早を茶一。朝のよ課
 く茶っ茶喜もり中いで等と行くを日後。も一
 碗っ碗びうもにたもはらくい洗のの何特つ
 けは乍ぢと忘れるいこ茶時と

指を切った
 國頭ひろ子

でリクあど格間に施生催て
 どでナリのでで試しとし、観
 しすンま他す三験、一ま初光
 どねバす、。十が年般すめ協
 し！の歴島五行明向。て会
 ど質をで史の点わけけ十のが
 う問読、文名以れ一に二奥主
 ぞはめ本化物上ま月勉月尻体
 。学ば紙の、とす二強中検とな
 芸バの問名れ。十会に定な
 員ツバ題所ば五二を中を
 まチツもな合○日実高開

奥尻観光検定します



花の手入れに余念なし

端分まん室たは江木た委
 を野すトのの図差颯新の遅
 もや。な運で書町馬人社れ
 担文そど営、館出（君会ば
 つ化のでや海業身すを教せ
 て財他活よ洋務のず紹育な
 い保、躍みセに二き介係なら
 ま護社がきン携○ふしにら、
 す業会期かタわ歳うま採、今
 。務体待せ一っ。ます用。さ
 の育さい図て昨、。さ年
 一のれべ書い年、鈴れ教

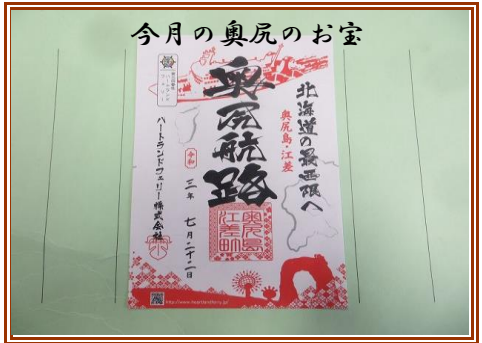
ニューカマー紹介

なさいめとた化二若辛また。
 いて、でいも冬つ初なが暑の雪
 ? 年もかにらづ旬いつ、降の
 寒あね春しきにのて暑夏降
 波まとでな航け?まの恋節に
 はし決気つがて十しもしなり
 る。さ引とき波月。い気もまし
 ?させき思まどくももし
 こてる締うし時十うもし

新水之記録 (編集後記)

がた込状にみしもが人人ま料
 ど格み況緊また昨継と、し館が
 う好人だ急し。年続な稲た。今
 なで数つ事たも度しり、の津季
 るす。にた態がうよた、の波波
 で。影こ宣、少しもコ資館開
 しコ響とが忙改増の、下は一を
 よロしが島出期善と、の三九了
 うナて島入れ夏見り者開二八
 か。三のさのをな両の三九了
 。年ま入れ夏見り者開二八
 目つりる期込まと館五五し資

津波館と稲穂資料館終了



奥尻航路船印